

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-01-15-01
事務事業名	し尿処理施設維持管理事業		
事業開始年度	昭和39年度～	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の2、第8条
総合計画	大項目	基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	し尿処理（し尿処理施設の検討）
	問合せ先	担当課（室）	環境課
		職・氏名	衛生係長・森本和成
		電話	64-1821

事業の実施	
対象（誰・何に対して）	市内のし尿・浄化槽の汚泥処理が必要な市民・市内事業者
目的（何のために）	し尿を効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。
行政活動（どのような方法で）	許可業者によるし尿の収集運搬の指示。 適正かつ効率的にし尿の処理を行うために施設の維持管理を行う。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	許可業者が収集したし尿及び浄化槽汚泥を適正かつ効率的に処理することで、生活環境の保全を行う。

事業の実績						
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	し尿処理量		KI	6,656	6,217	5,707
	浄化槽汚泥処理量		KI	7,173	6,981	5,987
	事業費	直接事業費		67,892	41,735	36,817
		人件費	千円	35,755	37,405	31,024
	財源	事業費計		103,647	79,140	67,841
		国県支出金		0	0	0
受益者負担			0	0	0	
必要人員	市一般財源	千円	0	0	0	
	一般財源		103,647	79,140	67,841	
必要人員		人	4.75	4.70	3.96	
結果指標	結果指標名		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	し尿処理量		説明			
	結果指標量	KI	6,656	6,217	5,707	
	対前年比	%	-	93.4%	91.8%	
	活動コスト	円	49,886,068	37,279,389	33,108,311	
単位当たりコスト	円	7,495	5,996	5,801		
結果指標	浄化槽汚泥処理量		説明			
	結果指標量	KI	7,173	6,981	5,987	
	対前年比	%	-	97.3%	85.8%	
	活動コスト	円	53,760,932	41,860,611	34,732,689	
	単位当たりコスト	円	7,495	5,996	5,801	

事業の成果			
成果指標名	し尿及び浄化槽汚泥処理量	式又は説明	衛生センターに搬入されたし尿及び浄化槽汚泥量
成果指標量	17年度	18年度	19年度
	13,826	13,198	11,694
対前年比		95.46%	88.60%
到達目標値	9,000	到達目標年度	平成27年度

事業の目的、対象、内容を考えて目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である（法律・政省令）	妥当性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
対象	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	法令に基づき今後もし尿及び浄化槽汚泥を適正に処理する必要があるが、施設の老朽化が進んでおり現状のまま維持することは困難である。現在今後の事業形態について検討中である。	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	また下水道の普及によりし尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量が減少しているため、「下水道の整備に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」に基づきし尿処理業者の代替業務について検討する必要がある。	
行政活動	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	効率性評価<A-E>	
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	B	
事業の意図する成果	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	施設の運営にあたっては常にコストの削減に努めており、水道・電気・燃料使用量は年々減少している。しかしながら施設の老朽化が進んでおり、これまで大規模な施設改修にむけ応急処置的な修繕のみを行っていたため、今後修繕料等の増加は避けられない。	
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい	有効性評価<A-E>	
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	C	
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	施設の運営にあたっては常にコストの削減に努めており、水道・電気・燃料使用量は年々減少している。しかしながら施設の老朽化が進んでおり、これまで大規模な施設改修にむけ応急処置的な修繕のみを行っていたため、今後修繕料等の増加は避けられない。	
効率性の評価	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難	有効性評価<A-E>	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	C	
手	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	施設の運営にあたっては常にコストの削減に努めており、水道・電気・燃料使用量は年々減少している。しかしながら施設の老朽化が進んでおり、これまで大規模な施設改修にむけ応急処置的な修繕のみを行っていたため、今後修繕料等の増加は避けられない。	
職	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	有効性評価<A-E>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	C	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	施設の運営にあたっては常にコストの削減に努めており、水道・電気・燃料使用量は年々減少している。しかしながら施設の老朽化が進んでおり、これまで大規模な施設改修にむけ応急処置的な修繕のみを行っていたため、今後修繕料等の増加は避けられない。	
有効性の評価	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	C	
成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	下水道の普及等によりし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量は、前年度と比較して10%以上減少しており、今後も減少する見込みである。	
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している	下水道の普及等によりし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量は、前年度と比較して10%以上減少しており、今後も減少する見込みである。	
<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		課題認識	
<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		下水道の普及等によりし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量は、前年度と比較して10%以上減少しており、今後も減少する見込みである。	

平成20年度の状況		説明	平成19年度中に施設整備の方向性を決定する予定だったが、現も保留状態である。施設運営にあたってはコストの削減に努めているが、特に焼却設備の老朽化は激しく、早急な対応が必要である。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 5,400	結果指標量	5,600
成果指標量	11,000		

総合評価		評価区分<A-E>	C
許可業者によるし尿の収集については、下水道整備により収集量が減少しており、法律に基づきし尿収集業者の代替業務を考える必要がある。処理施設については老朽化が長年課題となっており、また下水道や浄化槽の普及により、処理対象物の量や性状が年々変化していることから施設の処理方式や設備能力について見直す必要がある。合併直後から今後の事業形態について、現施設の改修若しくは新設による単独処理方式の継続または下水道接続、和気磐し尿処理施設への処理委託などを検討しているが決定に至っていない。施設の耐用年数は超過しており早急な対応が必要である。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	下水道への放流	平成24年度以降	